第３回委員会協議内容まとめ

学校の学力向上のための方策

良いところを伸ばす

・早く言えば自分のいい所、長所をみつけてやるのが学力をつけるということ。
・生活をしていくための技能、職を身につけさせる。一言でいうと、渡世できる力をつけさせる。それが何かを義務教育時代に見つけさせる。
・得意分野をほめて自信。

多様な考えに触れる

・課題を出してグループで答えを出す。（違った答えを知ることも大事）
・多人数で競い合う、子供たちで競い合う。

競争力を高める

・競争できる仲間（ある程度のクラス規模）
・やる気を出させるためにはグループでやってもいいのではないか。
・チームでの勉強を
・競争力
・生徒（児童）数の適正な数

やる気を高める

・子供たちに役割を！責任感、やる気 UP
・責任感。社会の一員として自己を確立させる教育。
・家での手伝いをいつも。
・キャリア教育を充実させて、学ぶ意義を実感させる。
・どんな職業につきたいか目標を決める。職業の紹介。
・自分の学力の順位が分かるように。
・学力低下フォロー。
・履修主義、修得主義。
・個々にあった勉強方法をさらに進める。
・学習規律の徹底（落ち着いた学習態度）。
・学ぶ意欲の喚起。
・何事にもなぜそうなるのか探究心を持ってもらいたい。
・自分は、答えは、言葉は正しいのだろうか？

ICT の活用

・子供たちに刺激を！IT、ICT 活用。
・IT を駆使した授業（見える化により物事を深く理解する。）
・IT 化。
・パソコンの活用。

家庭学習を充実

・家庭学習の充実。
・学校外での勉強。
・塾の役割。

基本的生活習慣を身につける

・読書できる子。
・規則正しい生活。

先生のやる気をサポート

・先生へのサポート（教育委員会、地域）
・学校と保護者の連携
・先生のやる気向上。
・小中一貫教育の推進
・配慮を要する児童への支援及び人員の配置。

小中一貫教育の充実

・小中一貫教育の充実。

玉名市の小中一貫教育

市では、中学校区を単位として小学校と中学校の教職員が連携・協力し、義務教育の９年間を見通した一貫性のある学習指導、生徒指導を行っています。この小中連携を、市では「小中一貫教育」と呼んでいます。

具体的には、中学校区ごとに「目指す児童・生徒像」を定め、小中合同の職員研修やあいさつ運動、リーダー研修などを行い、学力向上、中１ギャップや問題行動の解消などに取り組んでいます。

市内６中学校区の内、５つの中学校区は中学校と小学校の敷地が別にある分離型の小中一貫教育です。玉陵中学校区は、玉陵小と玉陵中が同じ敷地にあり、施設一体型の小中一貫教育に取り組んでいます。

学校環境の改善

ICT 整備

・ICT の活用。先端技術を取り入れる。
・ICT 環境。
・情報端末の整備。

適正な学級・学校規模

・１学年１００人、３学級程度。
・１クラス３５名程度、広い教室。
・２０～３０人で１クラス。
・適正な学級人数。
・２０～３０人の規模が望ましいが、人口動態から考えると厳しい。（統合しても１学級）

施設の充実

・老朽化。
・UD の視点での施設整備。
・施設の老朽化（修理の必要性）への対応。（エレベーター、トイレ等）
・洋式トイレ導入。

地域との連携

・地域との協力、
・多くの地域の人との関わり。
・地域社会が協力して子供を育てる。
・学校、地域の関連。
・地域とのコミュニケーション。町全体で盛り上げる。
・学び合える場の必要性。

安心・安全の確保

・安全な学校。（自然災害、不法侵入）
・安全、安心。

その他

・学校間の協力、出張授業、交換授業。
・義務教育を４・３・２（年間）のシステムにし、学ばせる。
・人的配置（例：特別支援教育支援員の増員
・人間関係、仲良し！（いじめ）人権に関することになるかな。
・子離れできない親にどう気付いてもらうか。親離れできない子供も。
・PTA 活動で除草作業をしますが、処分に困っている。